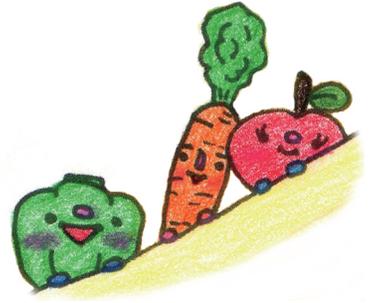




農薬を使わずに元気に育てる 家庭菜園・キッチンガーデン



無農薬栽培での失敗の原因を克服しよう

これから秋までの間、病害虫には悩まされる時期ですね。病害虫が多発しているときのほとんどが、野菜を健康的に育てていなかったり、病害虫の増えやすい環境を知らず知らずにつくってしまっているようです。今回は、その原因と克服する方法についてお届けいたします！

肥料のやりすぎ



元肥や追肥には窒素分が多く含まれますが、やりすぎると、窒素が好物である虫たちが集まりやすい環境を作ってしまいます。また、肥料過多の野菜は病気に感染しやすくなります。

有機質の肥料はゆっくりと効いていくため、育ちが遅いと感じてつい多めに与えてしましますが、葉の色が濃く、枝葉ばかりが茂って大きくなっている野菜は肥料過多の証拠です。

ホウレンソウなどの葉物類は周囲の雑草と変わらない濃さの色だと、健康的に育っている証拠。また、色が濃く、葉がごわごわしている時は、過多になっていることが分かります。

また、前作の肥料が土中に残ったままのこともあります。

キクノールには土にかかると肥料分をいっしょに吸い上げる働きがあるので、次の作では元肥をしっかり施さなくても、充分育てられるということがほとんどです。



土壌微生物が足りない



化学肥料を使い続けていると、エサになる有機物が少ないため土壌微生物が増えなくなってしまいます。

野菜は、“健康な土”で育ちます。

“健康な土”とは、団粒構造の発達した土のことで、多種多様な土壌生物が棲みついています。

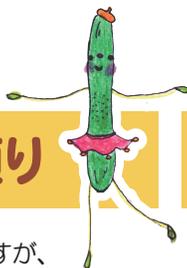
そして、土壌生物を増やすためにはエサとなる有機物が必要です。そのエサとなるのが堆肥で、適量をすき込むことで健康な土になっていきます。

肥料で野菜を育てるという発想ではなく、「土を育てる」という発想に切り替え、健康な土で育てることで、病害虫が減り、農薬を使わなくても良くなるのです。

堆肥をすき込みつつ、キクノールを土に散布することで、土中の微生物を増やし健康な作物づくりをしましょう。堆肥をすき込む際、微生物の棲みかとなる木炭チップも一緒にすき込むと、より効果的です。



化学農薬と化学肥料 頼り



化学肥料はすぐに養分として根から吸収されますが、実は、化学肥料は病原菌を増やす原因にもなっています。

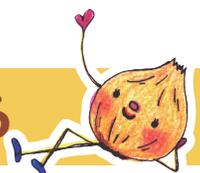
有機質肥料の場合は、病気を防ぐ善玉菌のエサになりますが化学肥料は病原菌のエサになる物質も含まれているのです。そのため、化学肥料を使い続けていると、病害虫が増え、農薬に頼らざるを得なくなってきます。

こうして、化学肥料と化学農薬は切っても切れない関係になっていくのです。

また、化学農薬は即効性があり、いっとき効果は出ますが、病害虫を退治すると同時に味方になる善玉菌や天敵の虫たちを殺してしまうので、薬効が切れた時が大変です。農薬をかける前よりの病原菌や害虫が増えてしまうこともあるのです。

病害中を少しでも減らして育てていくために、無化学肥料・無化学農薬で育て、**予防と、土を育てるために、キクノールを植え付け前の土壌に、苗の植え付け時、生育時の葉と土に、と、上手に使いこなして頂くことで、健全な作物づくりのお手伝い**をいたします。

弱った苗を植えている



植え付け時期に遅れてホームセンターなどで苗を購入してきた場合、弱った不良苗であることがあります。こうした苗では、植え付け後たちまち病害虫の餌食になってしまいます。

“苗作半分”という農家の言葉がありますが、これは「苗作りがうまくいけば、野菜づくりの半分はせいこうしたものだ」といわれるほど、育苗は大事な作業なのです。ですから、苗は元気であることが大切です。

苗を購入してきたら、キクノール500倍液をかけてあげましょう。

植え付けする際にも、植え穴に200倍液をたっぷり入れてから植え付けしてあげるのがお勧めです。

ぜひ、お試しください！

